昭和63年度厚生省心身障害研究
「マススクリーニングに関する研究」

先天性副腎過形成症のマススクリーニングの現況ならびにＰＫＵ患者の発生状況

住吉　好雄（日本母性保護医協会）

昭和52年からフェニールケトン尿症など５疾患を対象として公費負担による新生児マススクリーニングが開始されてから十余年が経過した。昭和54年からは先天性甲状腺機能低下症が対象疾患として追加され、更に平成元年１月以降は先天性副腎過形成症も対象疾患として加えられ７疾患について新生児マススクリーニングが行われるようになった。しかし先天性副腎過形成症については準備の整った県から開始することになっており、全国都道府県の中実際に１月から開始した県はどの位あるか、開始していない県はいつ頃始められるか等を知る目的でこのアンケート調査を行った。

方法　全国各都道府県日本母性保護医協会支部先天異常担当者にアンケート用紙を送り平成元年１月末日現在の各県の状態を調査した。

結果　調査した質問及び解答は別表のとおりである。

1．調査依頼数は47、回答数46、回収率は97.9％であった。
2．1989年１月１日より先天性副腎過形成症のスクリーニングを開始した県は46都道府県中27県、58.7％、まだ開始していない県は19県、41.3％であった。
3．まだ開始していない県の中平成元年（1989）２月から開始予定が１県（8.3％）、４月から開始予定が10県（83.3％）、７月から開始予定が１県（8.3％）であった。また開始の見通しが立っていない県が７県（36.8％）あった。
4．次に検査が陽性と言う返事をもらった時患者を紹介する病院が決っているかと言う質問に対し、決っていると答えた県は28（60.9％）決っていないが18県（39.1％）であった。
5．次に副腎過形成症の治療病院についての質問では、先づ数については１～５病院が19県（67.9％）、６～10病院が５県（17.9％）、11～20病院が４県（14.3％）であった。次に治療病院が、従来の代謝異常症、クレチン症の治療病院と同じ病院であるが24県（85.7％）違う病院もあるが４県（14.3％）であった。
6．治療病院を県内日母会員に通知済みか否かの質問に対し通知済みが14県（30.4％）まだ通知していないが28県（60.9％）であった。
7．副腎過形成症について対患者用のポスター又はパンフレットを希望するか否かの質問に

対し40県（87.0%）は希望すると言う解答であった。

考按　先天性副腎過形成症のマススクリーニングが厚生省の希望した平成元年１月から開始された県が60%で、40%はまだ開始していないのは意外であった。開始の見通しが立っていないと答えた県が７県もあり、１日も早く開始出来るよう努力されることを希望するものである。治療病院については従来の代謝異常症、クレチン症の治療病院と同じ病院であることが望ましいが、24県（85.7%）が全く同じであることよりほぼ望ましい状態と考えられる。また多くの県の日母会員は患者むけのポスターやパンフレットを希望していることがわかった。

次にＰＫＵ患者の都道府県別一覧表（1989年１月25日現在）を作製したが、これはMaternal ＰＫＵ問題が各都道府県とも数年以内におこって来ることが予想されるので産婦人科医と小児科の連けいを密にするための資料としていただくために作成したものである。同様のマップを４年前にも作成したが、それに比べるとかなり人数が少なくなっており、他府県に移動して把握出来なくなったのかどうか検討が必要である。（資料を提供していただいた母子愛育会特殊ミルク事務局船津益雄氏に深謝する。）

先天性副腎過形成症のマススクリーニングに

関するアンケート調査

アンケート回収状況表

調査依頼	回答数	回収率
47	46	97.9

（小数点第２位以下四捨五入）

Ｑ１．貴県におきましては、１９８９年１月１日より新生児マススクリーニングに先天性副腎過形成（症）を加えて施行されていますか。

１．はい……………………２７（５８．７）
２．いいえ…………………１９（４１．３）
回答数　４６

Ｑ２．Ｑ１で２に○をされた県におたずね致します。
先天性副腎過形成（症）を加えられるのはいつからですか。

１．（　年　月）から始める予定……１２（６３．２）
２．見通しが立っていない。…………　７（３６．８）
回答数　１９

１の回答の内訳
平成元年２月………………………　１（８．３）
平成元年４月………………………１０（８３．３）
平成元年７月………………………　１（８．３）
回答数　１２

Ｑ３．先天性副腎過形成（症）の検査が陽性と云う返事をもらった時患者を紹介する病院は決っていますか。

１．決っている。…………………２８（６０．９）
２．決っていない。………………１８（３９．１）
回答数　４６

Q４．Q３で１に○をされた県についておたずね致します。

①貴県の副腎過形成（症）の治療病院の数は

１．１～５……………………………１９（６７．９）
２．６～１０…………………………　５（１７．９）
３．１１～２０………………………　４（１４．３）
４．２１以上…………………………　０（０．０）
回答数　２８

②貴県の副腎過形成（症）の治療病院は従来の代謝異常症、クレチン症の治療病院と

１．全く同じである。………………２４（８５．７）
２．違う病院もある。………………　４（１４．３）
３．全く違う病院である。…………　０（０．０）
回答数　２８

Q５．副腎過形成（症）の治療病院を県内日母会員に通知されていますか。

１．通知済みである。………………１４（３０．４）
２．まだ通知していない。…………２８（６０．９）
３．無回答……………………………　４（８．７）
回答数　４６

Q６．副腎過形成（症）について日母会員には研修メモを已に配布いたしましたが、患者用のポスター、解説パンフレット等を希望されますか。

１．希望しない。……………………　３（６．５）
２．希望する。………………………４０（８７．０）
３．無回答……………………………　３（６．５）
回答数　４６

２の内訳（回答数４０）

Ａ．ポスター………３２………
- a.従来の６疾患も入れたもの…３１
- b.副腎過形成だけ………………　３

Ｂ．パンフレット…３６………
- a.従来の６疾患も入れたもの…３６
- b.副腎過形成だけ………………　２

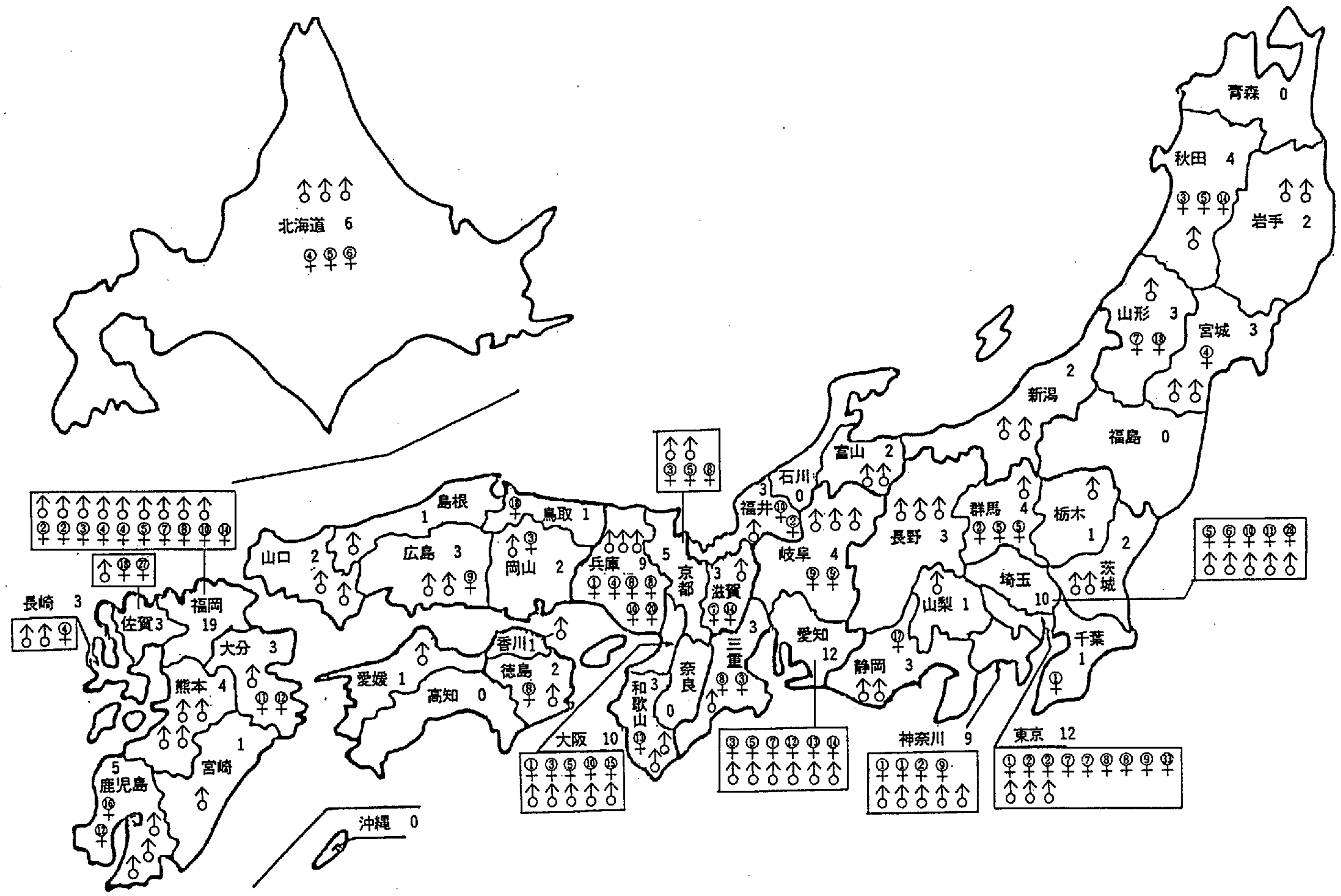
Ｃ．ポスターとパンフレット両方希望………２８

Ｑ４－②もしさしつかえなければ貴県の副腎過形成（症）の治療病院名をお知らせ下さい。

支部名	病院名
岩手	岩手医科大学付属病院、みどり学園小児病院
宮城	東北大学医学部付属病院小児科
山形	山形大学医学部付属病院
栃木	足利赤十字病院、大田原赤十字病院、小山市民病院、国立栃木病院済生会宇都宮病院、自治医大付属病院、独協医科大学病院、栃木県南総合病院、芳賀赤十字病院
埼玉	小児医療センター
千葉	国保松戸市立病院、成田赤十字病院、船橋中央病院、順天堂浦安病院、国立療養所、下志津病院、国保成田病院、千葉大付属病院、君津中央病院
東京	日本大学病院小児科、東京大学医学部付属病院小児科、東京慈恵医大付属病院小児科、都立清瀬小児病院、慶応大学医学部付属病院小児科、国立小児病院、東京女子医大第二病院、愛育病院、東京医科歯科大学病院小児科、杏林大学病院小児科、東邦大付属大森病院小児科
神奈川	昭和大学藤が丘病院、横浜市立大学病院、国立横浜病院、県立こども医療センター、日本医科大学第二病院、聖マリアンナ医科大学病院、横須賀共済病院、茅ヶ崎市立病院、東海大学病院、県立厚木病院、七沢障害・交通リハビリティション病院、国立相模原病院、北里病院
山梨	国立甲府病院、山梨医大病院、県立中央病院
静岡	沼津市立病院、静岡県立こども病院、浜松医科大学
新潟	新潟大学医学部付属病院小児科
石川	金沢医科大学病院、金沢大学付属病院、石川県立中央病院

三重	三重大学病院
京都	京都大学医学部付属病院、京都医科大学病院、第一日赤病院、第二日赤病院、国立京都病院、京都市立病院、国立舞鶴病院、国立福知山病院、済生会病院、南丹病院
鳥取	鳥取大学付属病院、鳥取県立中央病院
島根	島根県立中央病院
岡山	岡山大学医学部小児科、国立岡山病院小児科
広島	広島大学医学部小児科
山口	山口大学医学部、県立中央病院
高知	高知医科大学、高知県立中央病院、高知赤十字病院、高知市立市民病院
佐賀	佐賀医大小児科、久留米大学医学部小児科
宮崎	宮崎医大付属病院、県立宮崎病院

フェニールケトン尿症都道府県別一覧表（1月25日現在）



検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

昭和52年からフェニールケトン尿症など5疾患を対象として公費負担による新生児マススクリーニングが開始されてから十余年が経過した。昭和54年からは先天性甲状腺機能低下症が対象疾患として追加され、更に平成元年1月以降は先天性副腎過形成症も対象疾患として加えられ7疾患について新生児マススクリーニングが行われるようになった。しかし先天性副腎過形成症については準備の整った県から開始することになっており、全国都道府県の中実際に1月から開始した県はどの位あるか、開始していない県はいつ頃始められるか等を知る目的でこのアンケート調査を行った。